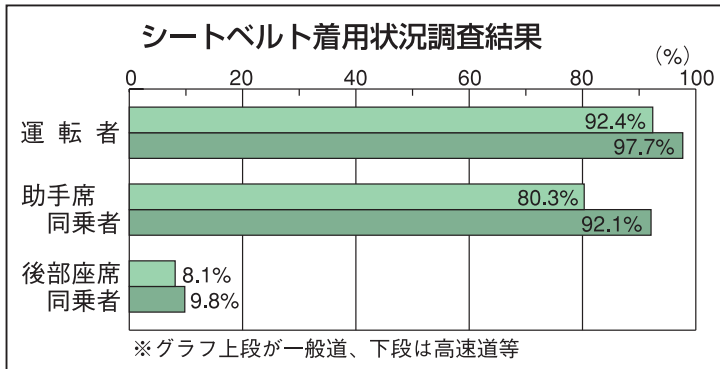


後部座席の人も着用を！ 安全を守るシートベルト

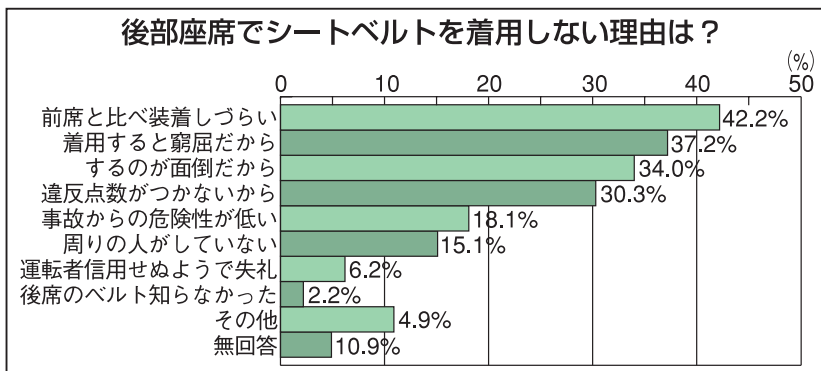


運転者や助手席のシートベルトの着用率は増加傾向を示していますが、後部座席のシートベルトの着用率はいまだに低い状況です。実は、後部座席でシートベルトを着用しないことは、危険な行為なのです。



警察庁と社団法人日本自動車連盟（JAF）が合同で、平成17年10月に実施した「シートベルト着用状況全国調査」によると、一般道路での後席シートベルト着用率は8.1%で、高速道路でもわずか9.8%にすぎません。後部座席でシートベルトを着用している人は全体の1割に満たないことが分かります。

後部座席でシートベルトを着用している人は全体の1割未満



後部座席でシートベルトを着用しない理由としては「前席と比べ装着しづらい」「着用すると窮屈だから」「シートベルトをするのが面倒だから」といった理由が多いようです。後席シートベルトの着用は、道路交通法において規定されていますが、一般にはシートベルト着用の重要性について認識が進んでいないのが実状です。

事故が起こったときには加害者にもなる

後部座席はシートベルトをしなくても安全な場所ではありません。後部座席のシートベルトを装着しないと、事故が起きた場合、どのような事態が発生するのでしょうか。

平成18年1月20日、独立行政法人自動車事故対策機構は、後席シートベルトの有効性検証のための前面衝突実験を行いました。実験は、運転席と助手席、後部座席にダミー人形を配置して、時速55kmでコングリートバリアに正面衝突させ、衝突時の状態を検証するものです。

この実験によると、シートベルト非着用状態では、後部座席のダミー人形が前の座席のダミー人形に、頭上に乗り上げるような状態で激突していました。これは、事故が起こった場合、後席シートベルト非着用状態では、本人が被害者となると同時に、前席の乗員にも被害を及ぼす加害者となってしまうことを意味します。



ダミー人形を使った衝突実験

また、同じようにして、小さな子どももダミー人形を使用して実験した場合は、体ごと前方向に飛ばされており、衝突の状態によっては、車外へ放出される危険性があることも分かりました。

一方、同じ条件でシートベルトを着用して実験を行った場合、シートベルトが後部座席の乗員の体を保持し、被害を最小限に食い止めていることが分かります。

この実験から実証されたように、後部座席においてもシートベルトの着用が後部座席に乗車している人のみならず前席に乗車している人の安全を守るために重要です。

これからは、後部座席の人にも忘れずにシートベルトを着用しましょう。